

URCA まちづくり企画支援事業 5年間の振り返り

URCAまちづくり企画支援事業委員会

1. 経緯等

地域の活性化活動を支援してきましたURCAまちづくり企画支援事業は、平成24年度で事業を終了しました。そこで、これまでの事業内容及び支援した団体等に実施したアンケート調査を報告します。

当企画支援事業を実施する前には、まちづくりに携わる専門家の職能の確立及び商店街など地域に立脚した創造的なまちづくりの推進に尽力された故藤田邦昭氏（元当協会副会長）のご遺族等からの寄付金をうけ、地域住民、企業、専門家やその団体、行政等による創意溢れるまちづくりの企画を支援する『藤田記念まちづくり企画支援事業』が平成14年に創設され、平成15年から5カ年事業として実施されていました。

また、『関西活性化支援事業』（平成16～18年度）として、若手を中心に「関西活性化支援事業実行委員会」を設立し3年間、都市再生や地域の活性化などのまちづくり活動への支援事業を、関西圏内に活動拠点を置いている団体等に限定して実施しました。

『関西活性化支援事業』は平成18年に、『藤田記念まちづくり企画支援事業』は平成19年で終了しましたが、再開発コーディネーターの社会的認知を高めることを目的として『URCAまちづくり企画支援事業』が、平成20年に事業期間を5カ年として創設されました。事業内容は概ね『藤田記念まちづくり企画支援事業』、『関西活性化支援事業』と同様となっています。

2. URCAまちづくり企画支援事業

1) 事業の概要

・目的

再開発コーディネーターの社会的認知を高めるため。

・支援事業の内容

支援事業の内容はハード整備やイベント等のソ

フト事業等広く対象とする。

特に地区活性化への意欲が感じられる創意工夫に富む事業を選考委員会にて選出し、金銭面の援助を実施した。支援を行った団体からは、年度末に実績報告書を提出してもらった。

・事業の期間

平成20年度から24年度までの5年間

・支援金額

年間支援総額100万円

2) 支援対象事業

平成20年度	5件	(応募者数 70件)
平成21年度	6件	(〃 60件)
平成22年度	5件	(〃 53件)
平成23年度	5件	(〃 95件)
平成24年度	5件	(〃 108件)
合計	26件	(合計 386件)

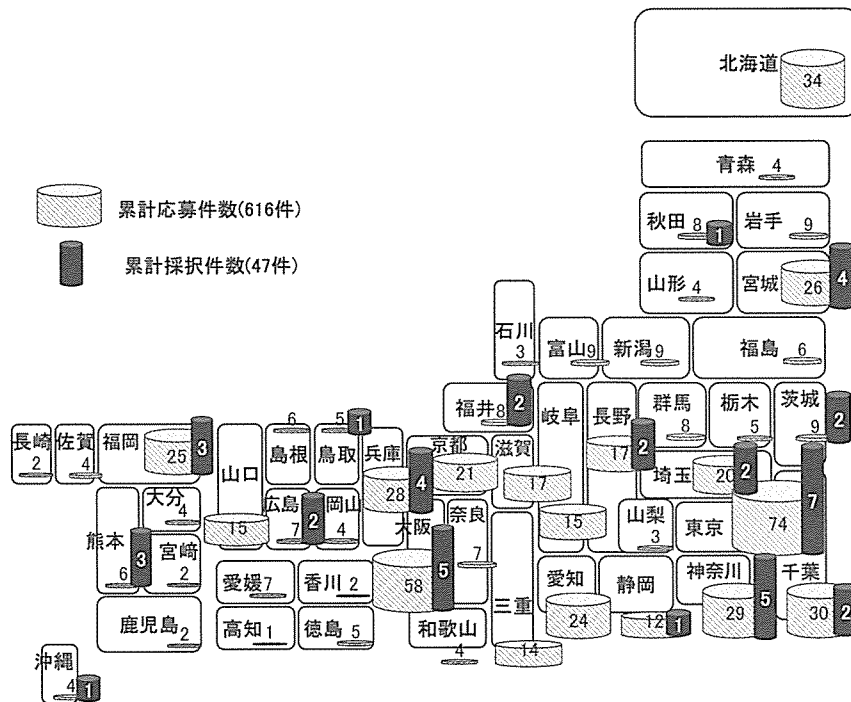
3. 応募状況及び採択された支援団体の概要

1) 支援対象事業

『URCAまちづくり企画支援事業』と『藤田記念まちづくり企画支援事業』を併せると応募件数は616件あり、採択件数47件となりました。これらについて、都道府県別にグラフ化を行いました。グラフに示すように全国から幅広く応募がありましたが、大都市圏からの応募割合が多くを占めました。

2) 採択した団体の概要

応募のあった団体の中から選考委員会で公正に審査を行い、毎年総額100万円の範囲内で複数の事業を選定し、金銭面での活動支援を行ってきました。採択された団体（47団体）とその事業企画名を表に示します。支援を行った団体からは、イベント開催の様子や活動の準備、企画のパンフレットを提出してもらいました。支援団体、事業名、活動内容は以下に記載のとおりです。なお、団体名は支援当時のものとなっています。



■採択された団体とその活動内容

①URCAまちづくり企画支援事業

年度	団体名、『事業名』	活動の特色
平成24年度	楽放課後楽校（福井県福井市） 『ふくいクラフト&アートワークショップ』	子供と親子を対象にした、まちづくりアートイベント。多くの人がアートに触れる体験や商店の人の繋がりを持つ機会を作り出すことで人とつながる楽しみを感じ、まちに親しみを持ってもらう。
	唐津街道姪浜まちづくり協議会（福岡県福岡市） 『地域の誇り創生プロジェクト～町家を知る、唐津街道を知る1週間～』	地域の財産である町家や町並みに興味を持ってもらうため、住民が楽しく参加できるような催しを行うとともに、唐津街道や町家そのものをアピールする催しを行う。
	urban design partners ballon（千葉県柏市） 『こどもたなカー・プロジェクト』	小学生が屋台型店舗「こどもたなカー」を企画・設計・運営するプロジェクト。自分たちの住む地域に賑わいをもたらす店舗を自らが考え、協力しながら進めていく。
	修善寺総合研究所（静岡県伊豆市） 『修善寺駅前「みんなでかたたらして」』	修善寺駅前を取り巻く様々な立場の人々が意見を交換できる自由討論会「みんなでかたたらして」を開催し、修善寺駅前周辺のまちづくり、賑わいづくりの核を創出する。
	エコプロジェクト（宮城県仙台市） 『小さな公園のエコでつながるまちづくり「まちなかecoマルシェ」』	つながりの希薄な仙台中心部にある小さな公園でエコをテーマにマルシェを開催。食やゴミ削減を通して出店、商店・周辺に暮らす人・買い物に訪れる人をつなぎ、エコなまちづくりを目指す。
平成23年度	NPO法人ささえ手（東京都豊島区） 『キッズアートプロジェクト～キッズアートで防犯に強いまちづくり～』	子供が安心して暮らせるまちは誰にでも優しいまち。子供たちのアートをまちに広げていくことで、自然と子供たちに気持ちが向かい見守る目を育て、安心なまちを作りたい。
	気まぐれ八百屋「だんだん」（東京都大田区） 『歩行者天国もとい「子ども天国」プロジェクト』	月に一度歩行者天国の子供版「子ども天国」を実施し、近隣の人々がその道路を自由に行き来できる場を提供することにより、近隣住民の交流を進め、地域住民の活躍の場と、子供の遊びの場を提供する。
	特定非営利活動法人棚田LOVER's（兵庫県姫路市） 『COME（コメ）BACK 棚田出合い市～都市農村交流、商店街・棚田活性化事業～』	COME（コメ）BACK 棚田祭と題し、商店街において棚田米や旬の野菜を販売する朝市やものづくり企画を実施し、ヒトとヒト、ヒトとモノの交流のきっかけを作り、都市と農村をつなげ商店街や棚田の活性化を目指す。
NPO法人ASO 田園空間博物館（熊本県阿蘇市） 『つくろう！ 巡ろう！ 神話・伝説のムラ阿蘇』	地域住民とともに地域に残る神話や伝説を活かしたまちづくりを行う。具体的には、神話・伝説各地を巡るマップの作成とこれを案内する地元案内人の育成、地元案内人による神話・伝説スポットの散策イベントを実施する。	

年度	団体名、〔事業名〕	活動の特色
平成23年度	黄金通り会（沖縄県那覇市） 『「花」でつながる町づくり』	黄金通りを花で明るく飾りたい。一つのプランターを、子供たちを中心に通り会会員や地域住民が里親となり管理することでコミュニケーションを生み出し、地域の活性化へとつなげたい。
	NPO 法人まちおこし・はにゅう市場（埼玉県羽生市） 『「藍の町はにゅう」創生プロジェクト』	伝統工芸「藍染」を復活させ、町のシンボルカラーにしたい。
平成22年度	Casoca（カソカ）（鳥取県鳥取市） 『Art Gocco（アートゴッコ）vol. 1』	鳥取県出身のアーティストと智頭街道商店街が協働して開催する芸術イベントの一部を担う美術道具の制作。
	取手駅東口商店会（茨城県取手市） 『アートと伝統文化のまち遊び「とりでえきまえアートバザール! in 大師通り」』	取手の歴史文化・お大師様の市をアートで復活する、新旧地域資源を生かした駅前商店街の再起・個性化事業。
	ハカタ・リバイバル・ブラン（福岡県博多市） 『博多百年町家ミュージアム』	四季毎に築百年の町家で、四季の祭りなど博多の風景風俗を描いた高レベルの作品を無料公開。
	NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト（広島県尾道市） 『三軒家アパートメント チャレンジショップルーム事業』	サブカルチャーゾーン「三軒家アパートメント」のチャレンジショップルーム開設による駅裏エリアの活性化事業。
平成21年度	キタミン・ラボ舎（埼玉県北本市） 『かえっこバザール』	独自の子供通貨を媒介とした物々交換マーケット「かえっこバザール」の開催。
	鶴沼の緑と景観を守る会（神奈川県藤沢市） 『鶴沼（藤沢市）の景観を守り、緑を残し、文化を後世に伝える』	緑の景観や建物を住民の環境保全活動で鶴沼の文化を次世代に伝達することを目的とし、景観絵画のデータベース化・松の木の分布図のデータ化等を行う。
	越前市四町まちづくり協議会（新潟県越前市） 『わが町をよくする委員会』	住民との協定による景観づくりの一環として、竹ひもと和紙によるフットライトの作成・設置（ともしび街道）およびプランターを使った花と緑のまちづくりを実施。
	堺「まち・話そうよ会」（大阪府堺市） 『宿院ふれあい劇場』	「宿院ふれあい劇場」事業として地元自治連合会と協力し、お笑いや懐かしの映画上映等を行い、地域の活性化に貢献。
	神戸ポートアイランド学生チャレンジショップ（兵庫県神戸市） 『神戸ポートアイランド学生チャレンジショップ事業』	学生の体験型・参加型まちづくりの一環として、ポートアイランド魅力再発見マップの作成や清掃・地域の見守り活動など多岐にわたる活動を実施し、ポートアイランドの活性化を目指す。
	YAHATA"HAHAHA"PROJECT（福岡県北九州市） 『YAHATA ART FRIENDS』	地元高校生と留学生との「八幡」をテーマにしたアート作品の共同制作を行った。地域の魅力や歴史を発見するための街歩き・冊子の作成・展示会開催等、一連の街なかギャラリー事業を実施。
平成20年度	町おこし団体「九条下町ツアー」（大阪府大阪市） 『阪神電車なんば線・延伸記念マップ発行・イベント支援』	阪神電車なんば線の早期開通を祈念して、素顔の大阪下町の魅力を紹介するツアーイベントを開催中。開通が来春に迫ってきたので開通記念マップやイベント関連事業を実施。
	熊本県小国町商工会女性部（熊本県阿蘇郡） 『「I love, You love, We love OGUNI」キャンペーン』	自分たちのまちを見つめ誇りを持ち、来訪者や観光者にまちを好きになってもらうため地域の資源をいかしたまち歩きパンフレットを作成し、地元商店街と来訪者による「まち歩き」を実践し、拠点づくりと協働のまちづくりを実施。
	NPO 法人たいとう歴史都市研究会（東京都台東区） 『和の文化体験を通して学ぶ、歴史的木造住宅をいかした町の活性化事業』	谷中、上野桜木の江戸期から築かれた寺町の歴史的建物や木造住宅を街の資産として継続的に有効活用する仕組みづくりを目的とし、和の文化の体験型教室（ワークショップ）を企画、運営する。一般の方から広く参加者を募集し活動してゆく。
	NPO 法人まちづくり、Com（宮城県仙台市） 『いろはどっとこむプロジェクト/リヤカー屋台（仮称）による活性化事業』	仙台の中心地にある最も歴史ある壱式参（いろは）横丁の集客力が低下してきたので、横丁のランドマークとなる「リヤカー屋台」を作り、集客の仕掛けをして仙台の「名物」に育てる事業。屋台にはインフォメーションやアンテナショップ機能を持たせ横丁の活性化を図る。
	石州街道・出口地区まちづくり協議会（広島県府中市） 『街なみ環境整備事業についての住民評価調査』	この地区は、平成16年より「街なみ環境整備事業」により住宅の修理、修景整備や街路・公園整備を行っている。事業開始から5年目となり、ここで地区住民の意識の変化を把握し、整備事業の効果について住民評価を行う。また、空き家の実態を把握しその活用方策を検討する。

②藤田記念まちづくり企画支援事業

年度	団体名、『事業名』	活動の特色
平成19年度	新屋表町通り活性化推進委員会（秋田県秋田市） 『まちで飲み、まちを語り、まちを創る～屋台塀による対話型まちづくりの実践～』	新屋地区は秋田～酒田間をつなぐ「羽州浜街道」の宿場町であり、豊富な湧水による「酒造り」で発展してきた町。現存する伝統的な町屋や蔵とともに塀と一体になった「屋台塀」による対話型まちづくりを実践する。
	TOSS 茨城（茨城県水戸市） 『子ども TOSS デー』	子供に成功体験をさせるため子供たちにまちづくりに興味をもってもらい、未来の住み良い社会を考える子供を育てる企画。まちづくり体験コーナーやマップ作りや模型製作など。
	特定非営利活動法人調布まちづくりの会（東京都調布市） 『誰もが住みやすいハードとソフトのまちのバリアフリー』	調布のまちが誰にでも住み良いまちになることを目的にハードとソフトのバリアフリーに取り組む。調布の中心市街地のまちづくりは進められているが、「誰もが住みやすい、活動しやすい、人に優しいまち」にするための絵本制作と、その読み聞かせを行う等により先導性のアピールと期待される効果に込めたい。
	特定非営利活動法人小田原まちづくり応援団（神奈川県小田原市） 『織ゆう別館・路地裏カフェ&ギャラリー実験プロジェクト』	お城に通じるメインストリートの路地裏の町屋を実験的にカフェ&ギャラリーに再生して境界の交流性を高める。メインストリート・プログラムを目標にまちなかのエコな空間、地域の食文化を高め、歴史をよみがえらせ、未来に活かすための呼びかけを全体の目標とする。
平成18年度	Jam（長野県飯山市） 『公園整備事業 ataGOmachi 計画』	雑草の生い茂る空き地を景観上からも公園として整備し人々の目を楽しませ、憩いの場所を提供する。
	『まちへ行こう!』プロジェクト実行委員会（長野県大町市） 『『まちへ行こう!』プロジェクト』	中心市街地の空き店舗やアーケード、倉庫等を舞台に、音楽仲間により様々な形態の「まちなかライブ」を展開。
	NPO 法人北条地区まちづくり協議会（兵庫県加西市） 『街なか休憩所（簡易井戸端会議場）の設置・運営』	加西市の玄関口である北条町駅から史跡五百羅漢までの間で、歴史的建造物の軒先を借りて簡易休憩所を開設。
	熊本まちなみトラスト（熊本県熊本市） 『城下町を巡る『ベロタクシー（三輪自転車）』連携事業』	歴史的建造物を人力によるベロタクシーで結び、城下町としての話題性を高め、歴史的環境の顕彰と利活用を促進。
平成17年度	NPO 法人らしく並木（神奈川県横浜市） 『コミュニティカレッジ』	市民講座の開催とコミュニケーションの場の形成。定年を迎えた、もしくは迎える人たちに生きがいの場の提供としてコミュニティ・カレッジを開催。
	赤い三角屋根の会（東京都国立市） 『～まちと人がつながる、緑と文化の国立広場（くにたちひろば）～』	中央線立体化に伴う駅周辺整備を契機としたまちづくり活動。フォーラム、説明会、討論会等の開催。駅前広場を中心とした提案計画を1日だけ実現し、まちづくりに対する住民の積極的な関わりを促進。
	芥川町一丁目中地区まちづくり協議会（大阪府高槻市） 『アクトに続け、超えろ。芥川中地区・まちなか再生・活き活きまちづくり』	学生との連携によるまちづくりイベント。完成した再開発事業と連続した「地元による地元のための、地元が潤うまち」を目指して、地元の大学生も参加するまちづくり提案の作成と活動を実行。
	神戸よさこいまつり学生実行委員会（兵庫県西宮市） 『神戸ハーバーランドよさこいまつり』	春の神戸まつり、冬のルミナリエに続く神戸の新しい祭り「よさこい」の定着を図るため、近畿圏の学生が実行委員会を作り、秋の「よさこいまつり」を実行し、新しい角度からの神戸を全国に発信。
平成16年度	NPO 地域情報支援ネット（大阪府東大阪市） 『緊急情報配信“防犯メールシステム”』	携帯電話を使った地域防犯ネットワークのシステムづくりと社会実験を行う。
	NEXT50 緑台プロジェクト実行委員会（神奈川県逗子市） 『NEXT50 緑台プロジェクト』	ストリートに設ける緑台の里親を募って市民参加型による商店街の活性化を図る。
	あそぼう広場（兼旭ヶ丘文庫）（宮城県仙台市） 『子どもの地域参画、バタフライガーデンからの発信』	ガーデニングと子供参加のコラボレーション活動を実行する。
	ひとみ座寄席を楽しむ会（神奈川県川崎市） 『寄席、子ども、伝統芸能、商店街、蛭～まちづくりの新たなキーワード～』	落語や乙女文楽を使った子供参加のイベント事業を行う。
平成15年度	NPO 天神天満町街トラスト（大阪府大阪市） 『なにわ野菜食卓普及事業』	地元で古くから栽培されている古代野菜の生産、加工、販売を目指したNPOを立ち上げる。
	冒険あそび場—せんだい・みやぎ連絡会—（宮城県仙台市） 『NPOによる新たな仕事起こし』	プレーパーク開催とプレーリーダーの養成・実践による都市の遊び場の活性化モデルとする。

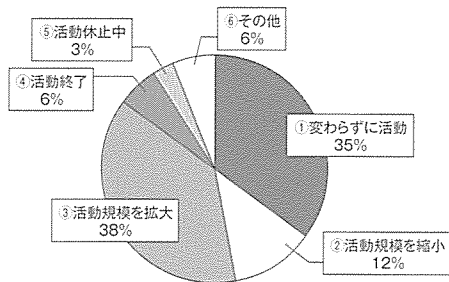
年度	団体名、『事業名』	活動の特色
平成15年度	久ヶ原マップをつくろう会（東京都大田区） 『久ヶ原マップづくりによる久ヶ原の地域活性化プラン』	ランドマークを具体的に示したマップづくりにより、地域活性化の活動に期待をつなげる。
	コミュニティアート・ふなばし（千葉県船橋市） 『まちづくりユースネット（仮）の設立』	若者主体による3都市の街づくり団体をネット化する。
	KOKO ぶれす（ここぶれす）（東京都小金井市） 『商店街と子育て中の親を結ぶ地域情報紙『KOKO ぶれす』発行』	小金井における商店街と子育て中の親を結ぶ地域情報紙を発行する。

4. 当事業の活動への効果についてのアンケート調査

本支援活動が対象事業にどのような効果をもたらしたのか、このような地域の活性化活動に取り組んでいる団体が課題としていることは、どのようなことであるかを把握するために、支援団体へアンケート調査を実施いたしました。支援当初からは10年の歳月が経過しており、解散した団体などもあります。アンケートには、47件中34件の団体から回答をいただきました。

【設問①：活動については、申請時と比較してどのような変化が生じていますか？】

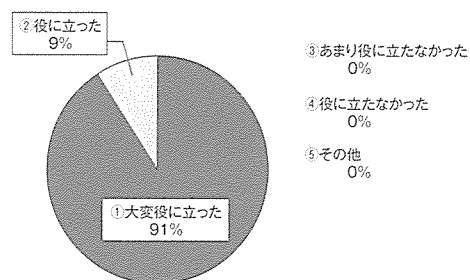
アンケートにご協力いただいた団体の活動については同規模で継続実施中、規模をさらに拡大し活動を行っているとの回答が多くを占めました。規模を縮小、休止した理由は、活動場所の確保が難しいことや参加メンバーの世代交代がうまくいかないことが挙げられていました。



【設問②：当協会の支援事業は、活動の役に立ちましたか？】

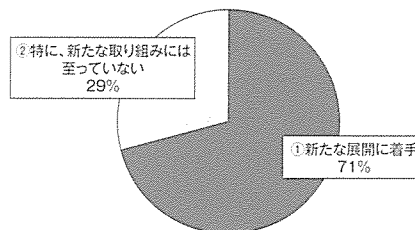
本活動支援金は用途を限定せず自由に使用いただいたため、募集ポスターによる内容充実や配布先の拡大により参加人数を増やすことや、活動内容を充実させることに貢献ができたようです。また金銭面以外の部分でも、当協会では有意義であると選定された活動であることが、イベント参加者の信頼度（安心感）の向上につながった、活動

メンバーのモチベーションアップが図られたという側面もあったことがわかりました。



【設問③：その後の活動の展開について】

活動の成功により新たな展開に着手した団体が数多く見られました。当初1回で終わらせようとしたものの、好評につき恒例のイベントとなったものや、他の団体とコラボレーションにより規模を拡大して活動している団体もありました。



5. アンケート調査を踏まえた当事業の効果等

『藤田記念まちづくり企画支援事業』から『URCAまちづくり企画支援事業』として、約10年間事業を実施しました。

支援にあたっては、特段に要件をつけず地区の活性化に意欲が感じられるものを評価しました。事業実施能力の高さを求めるものではありませんでしたが、この支援後も7割以上の方が継続して活動し、9割以上の方が大変役に立ったとし、7割の方が新たな展開に着手されています。

このように大変評価も高く、大変有意義な取り組みでありました。